

# 海軍公報

(部内限) 第四千三百八十六號

昭和十八年五月十二日(水)

海軍大臣官房

## ○令 達

官房人第八三六號

戰傷奉公杖授與規程左ノ通定ム

昭和十八年四月二十六日

海軍諸則登載

海軍大臣

### 戰傷奉公杖授與規程

第一條 戰地又ハ事變地勤務ニ從事中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲著シク歩行ヲ障礙セラレタル者ニ授與スル爲戰傷奉公杖ヲ設ク

戰傷奉公杖ハ之ヲ甲乙ノ二種ニ分ツ

第二條 戰傷奉公杖ハ海軍病院ニ於テ恩給ニ關スル症狀策定ノ結果左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ其ノ障礙ノ程度恩給法施行令第二十四條及第二十四條ノ二ニ規定スル傷病ノ程度ニ達スルモノト認ムルモノニ對シ授與スルモノトス  
一 義足若ハ補助裝置ヲ用ヒ又ハ此等ノモノヲ用ヒ

ザルモ著シク歩行ニ支障アリテ杖ヲ必要トスルモ

二 聽器、視器其ノ他ノ損傷ニ因リ著シク均衡機能ヲ障礙シ歩行ニ支障アリテ杖ヲ必要トスルモノ

第三條 海軍病院ニ入院中ノ者ニシテ恩給ニ關スル症狀策定ノ結果(現役軍人ニ在リテハ軍人傷痍記章授與願ニ添附スベキ診斷書調製後) 前條ノ規定ニ該當スルモノアルトキハ當該病院長ニ於テ戰傷奉公杖授與具申書(様式第一)ヲ調製シ之ニ診斷書及現認證明書又ハ事實證明書ヲ添へ順序ヲ經テ海軍大臣ニ進達スベシ

第四條 海軍大臣ハ前條ノ具申ニ依リ戰傷奉公杖ヲ授與スベキ資格アリト認ムル者ニ對シ之ニ授與證書(様式第二)ヲ添へ當該病院長ニ送付ス病院長ハ本人退院ノ際之ヲ傳達スルモノトス

第五條 戰傷奉公杖ハ海軍ノ制服ヲ着用スル場合ニ於テモ帶用スルコトヲ得但シ特ニ定メアル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(限 内 部)

海軍公報(部内限) 第四千三百八十六號 昭和十八年五月十二日

四四九

0189

第六條 戰傷奉公杖調達ニ要スル費用ハ恤兵金支辨ト

ス

第七條 戰傷奉公杖ヲ授與セラレタル者之ヲ亡失シタ

ルトキト雖モ再交付セズ

戰傷奉公杖ハ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ許サズ

様式第一

昭和 年 月 日

何々海軍病院長

海軍大臣宛

戰傷奉公杖授與ニ關スル件具申

左記ノ者何々勤務中 年 月 日何地ニ於テ何々ニ從事中公務ノ爲何部ニ何々傷痍ヲ受ケ(何病ニ罹リ)現在別紙診斷書記載ノ症狀ヲ貽シ戰傷奉公杖授與規程第二條第 號該當者ト認ムルニ付戰傷奉公杖甲(乙)ヲ授與相成度

記

本籍地

居住地

官職階氏

年 月 日生 名

様式第二(用紙辭令書乙ニ同ジ) 第 號

戰傷奉公杖授與證書

官職階 氏

年 月 日生 名

右者昭和十八年官房人第 號ニ該當ス仍テ戰傷奉公杖甲(乙)ヲ授與ス

昭和 年 月 日

海軍大臣 氏 名 圖

官房經第五五六號

昭和十五年官房第五三三號中左ノ通改正ス

昭和十八年五月十日

海軍大臣

別表ヲ別表ノ如ク改ム

(別表)

國名	支給率	適用期間
佛國	〇、五〇	昭和十八年一月乃至三月
獨國	〇、一五	同

亞爾然丁	智利	アフガニスタン	ソ聯	土耳其	白耳義	芬蘭	葡萄牙	ブルガリヤ	ルーマニヤ	洪牙利	瑞典	西班牙	伊國	瑞國
〇、三〇	〇、四〇	〇、四〇	〇、四〇	〇、三〇	〇、二〇	〇、四〇	〇、七〇	〇、三〇	〇、五〇	〇、三〇	〇、四〇	〇、四〇	〇、一〇	〇、三五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

海軍公報(部内限) 第四千三百八十六號

昭和十八年五月十二日

四五二

考	備	泰
ル	本表中泰國ノ支給率ノ適用ヲ受クル者ハ同國帝國大使館附武官同輔佐官及同國駐在員ニ限	國
		〇、四〇
		同

○通牒

官房備機密第一四五號ノ二

昭和十八年五月十一日

海軍

内今  
要登  
省副  
執模

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房備機密第一四五號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附錄部隊區別符表(其ノ一)中「第三十二設營隊」ウ壹四」ヲ加ヘ「第百五航空廠」ウ五六」「第百六航空廠」ウ壹貳六」ヲ削リ「第百八航空廠」ウ壹貳七」ヲ「南東方面海軍航空廠」ウ壹貳七」ニ改メ末尾ニ「第一五一航空隊」ウ貳五四」「第九三八航空隊」ウ貳五五」「第四十設營隊」ウ貳五六」ヲ加フ

0191

同(其ノ三)中「第百一海軍航空廠 イ四貳」ヲ削リ末尾ニ「吳鎮第八特陸 イ六四」ヲ加フ  
同(其ノ四)中「第百二航空廠 セ五壹」ヲ「南西方面海軍航空廠 セ五壹」ニ改メ末尾ニ「第二十五防空隊セ八壹」ヲ加フ

(参照) 五月一日附海軍公報(部内限) 別冊

經物第七三號

昭和十八年五月十日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件

通知

昭和十七年經物第二三五號第一第二項ニ依ル首題ノ件左記ノ通承認致候

記

會社名	所在地
小川工業株式會社	東京市深川區永代一丁目一六番地
合名會社長柄鑄造鐵工所	高岡市江尻四一番地
社團法人帝國畜產會	東京市日本橋區本町一丁目七番地ノ三
兼(兼) 武 仙 太郎 (組)	青島市德縣路一三號
吉(吉年可鍛鐵鑄造所)	大阪府南河內郡長野町大字長野一五〇番地
合資會社 中山工場	東京市中野區江古田二丁目六三〇番地
株式會社 長谷川鑄鋼所	東京市城東區南砂町六丁目五七八番地
東京製鐵鐵工株式會社	東京市城東區龜戶町五丁目二九一番地
日之出精機產業合資會社	大阪府西淀川區百島町二番地
株式會社 大森製機所	東京市大森區入新井四丁目二四番地
野村製鋼株式會社	東京市日本橋區通一丁目(野村ビル内)
間(間野、昇 鐵工所)	延岡市大字船倉一一〇番地ノ一五九
日本航空機器株式會社	橫濱市磯子區谷津町一二番地
林(丸千 鐵工所) 正	岡谷市田中通リ五七六七番地
株式會社 坂口賢鐵工所	大阪府西淀川區佃町四丁目一三番地
光重工業株式會社	東京府北多摩郡三鷹町野崎二二番地
原田造船株式會社	大阪府浪速區木津川町三丁目八番地

0192

海人機密第四九號

昭和十八年五月十日

内令  
要  
登  
載

海軍省人事局長

各所屬長官殿

文官等ニシテ大東亞戰爭ニ際シ召集セラレタル者ノ報告ニ關スル件申進

昭和十八年勅令第三百二十九號大東亞戰爭ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタル文官等ノ補闕及復歸ニ關スル件ニ依リ定員外ト爲リタルトキ及其ノ者所屬廳ニ復歸シタルトキハ直ニ左記様式ニ依リ二通報告相成度

記

召集(復歸)日時	官	氏	名

(官別ニ作製ノコト)

軍需糧第二〇號

昭和十八年五月十一日

海軍省軍需局長  
海軍省經理局長

海軍公報(部内限)第四千三百八十六號

昭和十八年五月十二日

四五三

關係各廳長殿

海軍直營ノ漁撈施設ニ依リ漁獲シタル生魚肉ノ受入及供給整理ニ關スル件通牒

現地海軍部隊ニ對スル補給ノ爲海軍直營ノ漁撈施設ニ依リ漁獲シタル生魚肉ノ受入及供給整理ハ左記ニ依リ處理相成度

記

- 一 漁撈施設擔當軍需部ニ於テ漁撈實施ニ依リ漁獲シタルモノハ毎旬其ノ前旬ニ於ケル數量ヲ同部在庫品ニ受入ノ手續ヲ爲スモノトス
- 二 艦隊ニ於テ漁撈實施ニ依リ漁獲シタルモノハ毎旬其ノ前旬ニ於ケル數量ヲ漁撈施設擔當軍需部ニ通知シ同軍需部ハ之ヲ同部在庫品トシテ受入ノ手續ヲ爲スモノトス
- 三 前項ノ通知ニハ之ガ供給ヲ受クベキ艦船部隊ノ請求票及領收票ヲ添付スルモノトス
- 三 漁撈施設擔當軍需部前號ニ依リ受入レタルトキハ添附ノ請求票及領收票ニ依リ之ガ供給ノ手續ヲ爲スモノトス

○ 辭 令



第一課勤務ヲ命ス

同	野上 勇
同	塚原 一郎
同	林 四郎夫
同	大橋 治
同	佐伯英三郎
同	久米 惟敏
同	宮本 英男
同	櫻井 敏雄
海軍編修書記	高久 景一
海軍技手	星 三郎
同	稻野邊 三男
同	原田 正夫
同	占部 牛太郎
同	伊坂 達孝
同	根本 順吉
同	小林 久幸
同	草間 一夫
同	林 義郎
同	石田 傳
同	福士 三郎

(各通)

第二課勤務ヲ命ス(以上<sup>昭和十八年</sup>海軍氣象部)

同	花澤 正策
同	石川 賢一
海軍主計中尉	増井 潔
同	穂積 重直
同	片桐 貞夫
同	友成 隆次
同	山田 宏

(各通)

第三部勤務ヲ命ス

戰史部勤務ヲ命ス(以上<sup>昭和十八年</sup>軍司令部)

○ 雜 款

○將旗掲揚  
第十四聯合航空隊司令官ハ四月二十日將旗ヲ臺南海軍航空隊ニ掲揚セリ

○司令驅逐艦變更  
第二十二驅逐隊司令ハ四月三日司令驅逐艦ヲ長月ニ變更セリ

○司令部移轉  
第十四聯合航空隊司令部ハ四月二十日臺南海軍航空隊内ニ移轉セリ

○事務所撤去

島風艦裝員事務所ハ五月十日撤去セリ

○訂正

五月一日附公報(部内限) 辭令欄四〇〇頁上段「宮田  
專一」ノ發令月日「四月十八日」ハ「昭和十七年四月  
十八日」ニ訂正

0196 /



(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

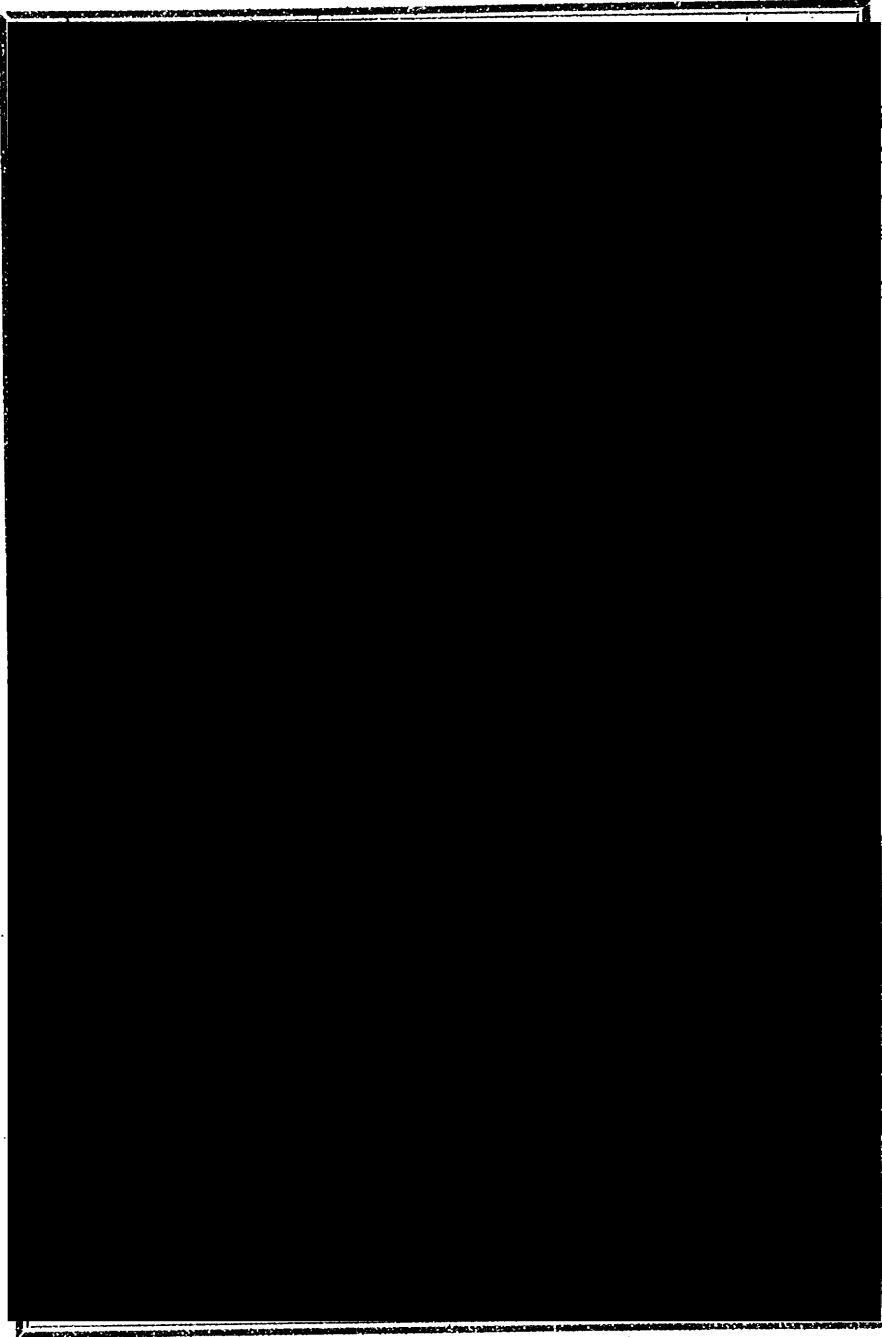
○ 判 決

昭和十八年五月十二日(水)  
海軍大臣官房

海軍公報 (部内限) 號外

0197

海軍公報 (部内限) 號外



0198

海軍公報(部内限) 號外

三

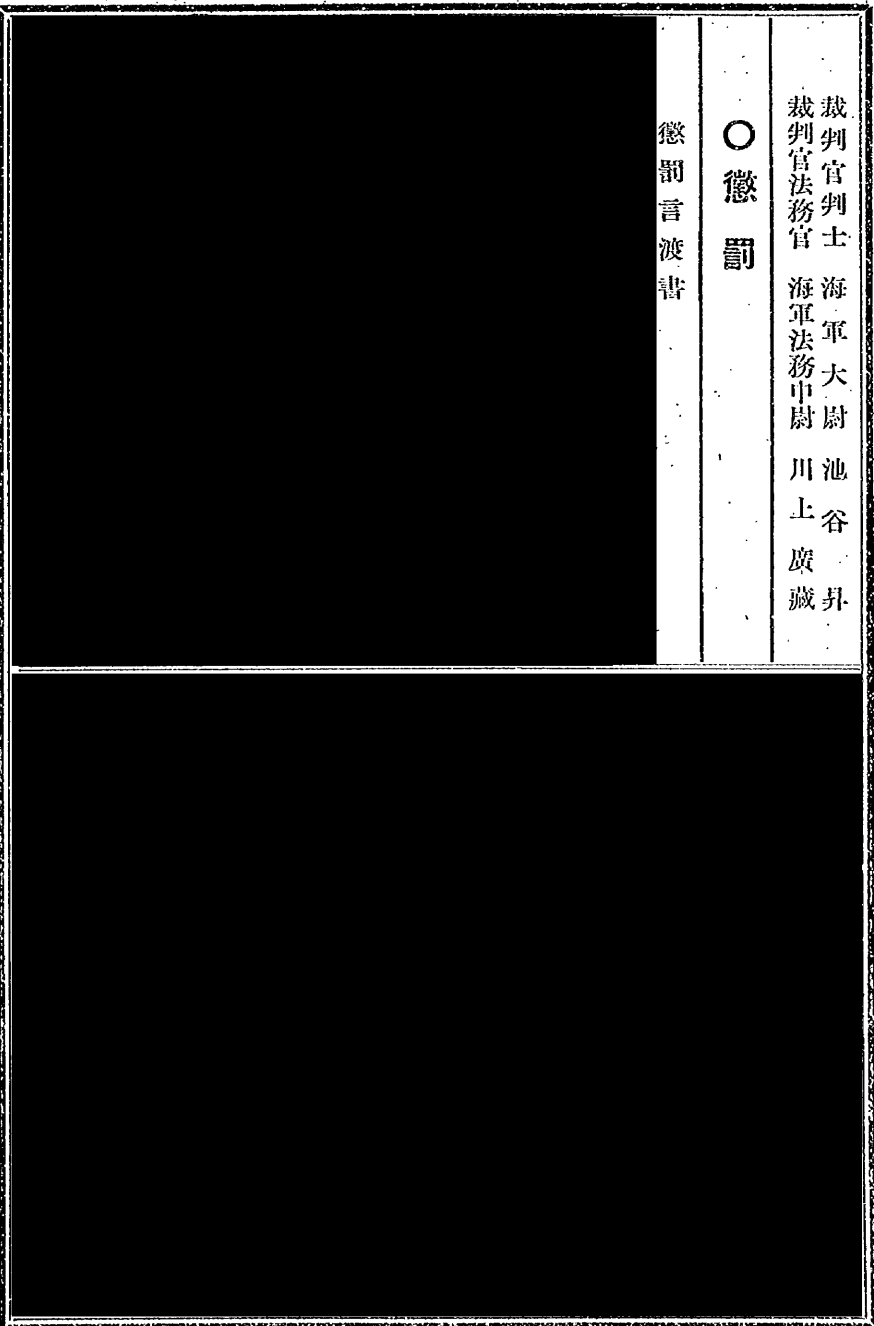
0199

海軍公報 (部内限) 號外

裁判官判士 海軍大尉 池谷昇  
裁判官法務官 海軍法務中尉 川上廣藏

○ 懲 罰

懲罰言渡書



四

0200

海軍公報 (部内限) 號外

五

0201

海軍公報 (部内限) 號外

六

0202

# 海軍公報

(部内限) 第四千三百八十七號

海軍大臣官房

昭和十八年五月十三日(木)

## ○通牒

官房人第九四四號

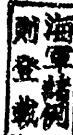
昭和十八年五月十二日

海軍省 副官

各廳長 殿

現役海軍士官名簿訂正ニ關スル件通牒

自今海軍辭令公報(部内限)ヲ以テ首題名簿ノ訂正紙ニ代フルコトニ定メラレ候



## ○辭令

麥千參百六拾圓

貳千六百四拾圓

(各通) 貳千五百貳拾圓

千參百貳拾圓

千貳百六拾圓

徵用中自今年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官

麻生 五郎

鳥越 停造

門元 順一

城戸 義雄

森 東

待遇トス(海軍省)

(各通) 千五百圓

徵用中自今年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官

待遇トス(海軍省)

(各通)

第二課勤務ヲ命ス

第一課勤務ヲ命ス

(各通)

第四課勤務ヲ命ス(以上海軍省軍務局)

第二課勤務ヲ命ス

第一課勤務ヲ命ス

岡 榮

芳澤 勝一

海軍大佐 林 孝善

同 柴 勝男

同 吉田 英三

海軍主計中尉 松岡謙一郎

同 河津 祐光

同 横山 晋一

海軍大佐 林 孝善

海軍大佐 櫛引 誠雄

海軍公報(部内限) 第四千三百八十七號

昭和十八年五月十三日

四五七

0203

第二課勤務ヲ命ス(以上<sup>五〇四</sup>海軍省兵備局)  
海軍主計大佐 林 雄二

第六課勤務ヲ命ス(以上<sup>五〇四</sup>海軍省經理局)  
海軍主計大佐 松ノ谷武三郎

第百二海軍經理部バリツクババン支部ニ要スル給與  
及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命  
ス  
海軍主計少佐 沼田 理二

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上<sup>五〇四</sup>支出官海軍省經  
理局長)  
海軍主計大佐 松田 盛男

東京海軍通信隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ  
爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス  
海軍主計少尉 小野寺 清助

右同臨時分任出納官吏ヲ免ス(以上<sup>五〇四</sup>同)  
梅津 留治

第三課勤務ヲ命ス  
海軍主計大佐 井川 一雄

第二課勤務ヲ命ス  
海軍主計中尉 秋田 博正

(各通) 同 谷口 直行  
根木 一郎

第三課勤務ヲ命ス(以上<sup>五〇四</sup>海軍省軍需局)

○ 雜 款

○司令驅逐艦變更  
第九驅逐隊司令ハ五月八日司令驅逐艦ヲ白雲ニ變更セ  
リ

○開隊  
黃流海軍航空隊ハ四月一日開隊セリ

○取消  
昭和十八年四月二十日附公報<sup>本報附録</sup>辭令欄一八九  
頁上段六行目「崎山用喬」ノ辭令ハ取消

0204



(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

海軍大臣官房

昭和十八年五月十三日(木)

○ 令 達

官房人第九四五號

昭和十八年度士官、見習尉官、特務士官、准士官(召集中ノ准士官以上ヲ含ム)ノ考課表、拔擢名簿、候補名簿及昭和十八年後期下士官、兵(召集中ノモノヲ含ム)ノ任用進級試験、考課表、拔擢名簿、兵進級決定候補名簿ハ左ノ各號ニ依リ取扱フベシ

昭和十八年五月十三日

海 軍 大 臣

一 定期考課表ハ海軍考課表規則第四條ノ規定ニ拘ラズ左表ニ依リ之ヲ調製、進達及移牒ス

官 別	期 日、期 限	調 製 期 日	任用進級候補名簿 調製官ニ進達期限	在籍鎮守府司令長官ニ 進達(移牒)期限	海軍大臣ニ 進達期限
士 官	見 習 尉 官	七 月 一 日	七 月 十 日		七 月 二 十 五 日
特 務 士 官	准 士 官	八 月 一 日		八 月 十 日	
上 等 下 士 官	士 官	八 月 一 日		八 月 十 五 日	

海軍公報 (部内限) 號外

0205

一、二等下士官  
(師範學校卒業以外ノ者ニシテ下士官任用資格ヲ有スル者)

八月一日

八月十五日

二 拔擢名簿及候補名簿ハ海軍武官任用進級取扱規則第四條ノ規定ニ拘ラズ左表ニ依リ取扱フモノトス

現官階	調製		實役停年 計算期日	拔擢名簿 調製期日	候補名簿 調製期日 <small>(移替)期限</small>	海軍大臣ニ 進達期限
	現役員	區分 召集員				
將校 各科中佐	昭和十五年十一月十日以前進級ノ者	各官階共現役員ト同等以上ノ經過年(現官へ任用進級後ノ現役期間及現官トシテノ召集中ノ期間ヲ通算シタルモノ)ヲ有スル者	六月三十日	七月一日	七月十日	七月二十五日
少佐、大尉	昭和十四年十一月十日以前進級ノ者					
各科中尉	昭和十七年三月十日以前進級ノ者					
各科少尉	昭和十七年十一月十日以前進級ノ者					
特務大尉	昭和十三年十一月十日以前進級ノ者					
各科中尉	昭和十七年三月十日以前進級ノ者					
各科少尉	昭和十七年十一月十日以前進級ノ者					
准士官	昭和十六年九月十日以前進級ノ者					
上等下士官	昭和十七年四月三十日以前進級ノ者		七月三十一日	八月一日	八月十五日	
一等下士官以下	追テ定ム					

三 所轄長ハ海軍兵進級規則第九條第一項ノ規定ニ拘ラズ本年八月一日現在ノ部下上等兵及一等兵ニシテ進級ニ必要ナル實役停年(實役停年計算期日ヲ七月三十一日トス)ヲ有シ進級試験ニ合格シタル者ニ勤務評點ヲ付與シ此ノ評點ト試験成績、性格、技能、品行等トヲ參酌シテ兵進級決定候補名簿ヲ調製シ同條第三項ノ區分ニ依ル候補者ノ員數ヲ八月十五日迄ニ在籍鎮守府司令長官ニ報告ス但シ九月一日ニ於テハ進級資格ヲ有スルモ本號ニ依ル取扱ノ結果之ヲ失フ者ニ對シテハ八月一日現在ノ勤務ガ九月一日迄繼續スルモノトシテ實役停年(實役停年計算期日ヲ八月三十一日トス)ヲ計算シ兵進級決定候補名簿ニ之ヲ登載シ其ノ旨附記ス

四 海軍下士官兵任用進級試験規則第三條ノ規定ニ依リ本年九月ニ於テ施行スベキ任用進級試験(作戰行動上已ムヲ得ズ施行シ難キモノヲ除ク)ハ八月ニ繰上ゲ施行ス但シ所轄長ハ八月ニ試験ヲ施行シ難シト認ムルトキハ所屬長官ノ認可ヲ受ケ便宜施行スルコトヲ得

五 召集中ノ豫備士官ノ考課表取扱ハ第一號ニ準ズ

(限 内 部)

# 海軍公報 (部内限) 第四千三百八十八號

昭和十八年五月十四日(金)

## 海軍大臣官房

### ○軍令

朕商港警備府令中ヲ改定シ之ガ施行ヲ命

御名 御璽

昭和十八年五月十三日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海軍諸例  
則登載

軍令海第十號

商港警備府令中左ノ通改正ス

第九條中「艦船部隊ヲ指揮スルノ權ヲ有ス但シ之ガ爲當該艦船部隊」ヲ「艦船部隊又ハ部下ニ非ザル官廳ヲ指揮スルノ權ヲ有ス但シ之ガ爲當該艦船部隊又ハ官廳」ニ改メ同條末尾ニ左ノ如ク加フ

重要商港ニ於テ緊急ノ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ當該艦船部隊又ハ官廳ノ本務ヲ妨グルニ至リタルトキハ司令長官ハ之ヲ海軍大臣及軍

令部總長ニ報告シ且當該艦船部隊又ハ官廳ノ所屬長官ニ通報スベシ

### ○令達

官房需第一一四號

當分ノ間教育召集ノ補充兵ニハ海軍給與令施行細則第八十四條第二項ノ規定ニ拘ラズ同條第一項ニ準ジ同則第八表ノ被服物品ヲ交付シ教育終了後直ニ召集ヲ解除セラル、モノハ其ノ際之ヲ還付セシム

昭和十八年五月十三日

海軍大臣

官房需第一一六號

昭和十年官房第五二五九號中「航空隊設備費、作場費支辨」ヲ「臨時軍事費、臨時軍事費、營繕費、作場費支辨」ニ改ム

昭和十八年五月十三日

海軍大臣

海軍公報 (部内限) 第四千三百八十八號 昭和十八年五月十四日

四五九

0208

参照 昭和十年官房第五二五九號ハ航空隊設立準備委員ニ要スル總  
營需品消耗品又ハ燃料ノ件ナリ(會計法規類集四卷二三四頁  
及艦營需品燃料取扱例規一六〇頁)

○通牒

官房設機密第一三三八號

昭和十八年五月十三日

内令提  
要登載

海軍省副官

各廳長殿

海軍施設本部補給部ノ呼稱ニ關スル件通牒

第四海軍建築部東京支部(芝浦海軍建築支部)廢止セ  
ラレ今般内令第七百八十六號ヲ以テ海軍施設本部補給  
部ヲ設置セラレ舊芝浦海軍建築支部ニテ之ガ事務ヲ開  
始セシメラレタルニ付テハ事務處理ノ便宜上自今之ヲ  
芝浦海軍施設補給部ト呼稱シ得ルコトト定メラレ候

經豫機密第三號ノ五五

昭和十八年五月十三日

海軍省經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

日本銀行代理店設置ノ件通知

國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ「スマトラバダン」

經豫機密第三號ノ五六

昭和十八年五月十三日

海軍省經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

日本銀行代理店ニ關スル件通知

五月一日ヨリ左記日本銀行代理店派出所ハ同行代理店  
トナリ國庫事務ヲ取扱フコトト相成候

記

石門代理店保定、新郷各派出所

太原代理店臨汾、運城、陽泉各派出所

上海代理店南京、杭州、漢口、蚌埠、沙市、石灰窑、

金華、蘇州、九江、安慶、南昌各派出所

施本第七三二八號

昭和十八年五月十三日

海軍施設本部長  
海軍省兵備局長

關係各廳長殿

煖房設備ニ關スル件通牒

昭和十三年十月五日軍務二第三四九號通牒首題ノ件ニ

海軍諸例  
則登載

0209

關シ取扱上疑義ノ存スル向モアルヤニ見受ケラルルニ付テハ左記ニ依リ處理相成度

記

- 一 本州北部トハ當分ノ間青森縣ノミトス
- 二 昭和十五年十一月二十六日建機密第三〇五〇號ノ三燬爐設備ニ關スル件横須賀海軍建築部長宛回答(機密會計法規類集二〇七頁參照)ハ當時ニ於ケル緊屬工事ニ對スル暫定的處理方法ニ付既ニ自然消滅セルモノトス
- 三 燬房設備中止ニ代フル燬爐ノ取付ニ關シ既訓令又ハ豫算配付濟ノモノノ處置ニ付テハ契約擔任ノ區分ニ依リ處理スベキモノトス

(參照) 昭和十三年十月六日附海軍公報(部内限)本欄

海運機密第四四七號

昭和十八年五月十日

海軍運輸部長

關係各廳長殿

鐵道輸送貨物荷受人名及專用線名略號記  
入ニ關スル件通牒

海軍公報(部内限)第四千三百八十八號

昭和十八年五月十四日

四六一

海軍關係貨物取扱ノ便宜上貨車車票面相當欄ニ海軍荷受人名及海軍專用線名ヲ略號ヲ以テ表示ノコトニ鐵道省ト協議致候條運送申込ノ場合ハ貨物運送狀所定欄又ハ鐵道軍用輸送券備考欄ニ左記略號附記ノコトニ取計相成度

記

(一) 海軍荷受人名略號

軍 荷 名	略 號	軍 荷 名	略 號
航 空 廠	(空)	經 理 部	(經)
補 給 工 場	(補)	空 技 廠	(技)
建 築 部	(建)	海 軍 病 院	(病)
航 空 隊	(隊)	海 兵 團	(團)
軍 需 部	(需)	海 仁 會	(仁)
火 藥 廠	(火)	衣 租 廠	(衣)
燃 料 廠	(燃)	監 督 官	(監)
海 軍 工 廠	(工)	共 濟 會 物 資 部	(物)

(二) 備考 廣工廠宛ニ限リ「廣」ヲ附記スルコト  
海軍專用線名略號

接續驛	契約相手 (専用線名)	宛先名	略號
舞鶴	舞鶴海軍經理部 (艦材園場線)	舞鶴海軍工廠艦材園場	特一番
東舞鶴	舞鶴海軍經理部	舞鶴海軍軍需部及建築部	特二番
中舞鶴	海軍火藥廠爆藥部 (爆藥部線)	第三海軍火藥廠	特一番
同	舞鶴鎮守府(軍需部火藥庫線)	舞鶴海軍軍需部火藥庫	特二番
同	同 (工廠線)	舞鶴海軍工廠	特三番
同	同 (衣糧課線)	舞鶴海軍軍需部衣糧課	特四番
同	同 (被服工場線)	舞鶴海軍軍需部被服工場	特五番
同	同 (艦材園場)	舞鶴海軍舊工廠艦材園場	特六番
同	同 (軍需部本部線)	舞鶴海軍軍需部本部	特七番
同	海軍航空廠(岩子線)	第十一海軍航空廠舞鶴支廠補給工場	特八番

備考 前記以外ノ海軍専用線ニ對シテハ「專入」ト記入スルコト但シ佐世保海軍専用線到著ノモ

ノニ限リ「南線」又ハ「北線」ヲ附記スルコト  
昭和十七年九月二十九日海運第六三號ハ之ヲ廢止ス

○ 辭令

(各通) 通信書記 安達 仙太郎  
遞信屬 根本 義雄

第四十二海軍軍用郵便所員ヲ命ス

事務員 佐伯 亮一

(各通)

同 古田 和三男

同 田上 勇三

同 仙 恒男

同 西村 岩男

同 集配員 岩崎 重人

同 植村 實則

第四十二海軍軍用郵便所員ヲ命ス  
但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上<sup>十五</sup>海軍省)

○ 雜款

○本日普通公報發行セズ

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限)第四千三百八十九號

昭和十八年五月十五日(土)

海軍大臣官房

## ○通 牒

軍務一機密第三九一號

昭和十八年五月十四日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

練習航空隊ノ一部部外發表ニ關スル件中  
改正ノ件申進

一月二十日軍務一機密第四二號申進首題ノ件中鹿兒島  
海軍航空隊ヲ追加セラレ候條了知相成度

兵備四機密第四〇〇號

昭和十八年五月十二日

海軍省兵備局長

關係廳長殿

昭和十九年度陸軍兵役關係者召集延期ニ  
關スル件通知

首題ノ件ニ關シ陸軍省ヨリ別冊戰時召集延期實施要領  
ニ依リ處理スベキ旨通知有之候條可然取計相成度

(別冊七頁、別紙十一葉添)

兵備三機密第一一〇號ノ二

昭和十八年五月十五日

海軍省兵備局

關係各廳御中

徵備船舶名變更ノ件通知

同名ノ徵備船ニ付左記ノ通船名變更セラレ候

記

固有船名	船舶番號	改	名
光 德 丸	四一三七六	い 號	光 德 丸
第三開洋丸	朝鮮二六八八	い 號	第三開洋丸
大 成 丸	同 三三〇	い 號	大 成 丸
那 智 丸	同 二五九〇	い 號	那 智 丸
第三日ノ出丸	四五〇八七	い 號	第三日ノ出丸

海軍公報(部内限)第四千三百八十九號 昭和十八年五月十五日

四六三



艦本機密第一號ノ五七二二

昭和十八年五月十四日

海軍艦政本部總務部長

横須賀、賀、吳 海軍工廠長

佐世保、舞鶴 殿

横須賀、賀、吳 海軍軍需部長

現地砲臺用兵器輸送等ニ關スル件照會

第一線ニ於ケル首題兵器ノ整備ニ當リ從來砲附屬電氣兵器(旋回、俯仰、信管秒時受信器等)及砲部品送付遅延ニ因リ砲臺整備ニ種々不都合ヲ惹起セル例アリタルニ鑑ミ自今高角砲用附屬電氣兵器部品等ハ内地ニ於テ一應取附ケタル上現地へ輸送ノコトニ可然取計相成度

追テ所要兵器中小型ノ高射装置、測距儀、電動機等ハ艦隊側ト協議ノ上成ルベク現地行ノ軍艦、驅逐艦等ニ托送スル等ノ方策ヲ講セラレ度

○ 辭令

第四課勤務ヲ命ス

海軍主計中尉 森本 則雄

第五課勤務ヲ命ス

同

飯塚 賢二

第三課勤務ヲ命ス(以上ニ同海軍省經理局)

同

小関 博

同

菅谷 秀夫

海軍施設本部補給部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

同

危谷 正氣

驅逐艦玉波ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(以上ニ同支出官海軍省經理局長)

横須賀海軍經理部名古屋支部部長海軍主計大尉

池田 亮三

艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(以上ニ同)

海軍主計中尉 佐藤 亮逸

驅逐艦島風ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(以上ニ同)

海軍豫備中尉 桑畑 武彦(擇提)

海防艦擇提審議委員ヲ命ス(以上ニ同海軍艦政本部)

○ 雜款

○司令潜水艦變更  
第三十潜水隊司令ハ五月十五日司令潜水艦ヲ伊號第百六十六潜水艦ニ變更セリ

○司令艇指定  
第四監視艇隊ハ五月七日司令艇ヲ萬壽丸ニ指定セリ

○試験問題發送

第四十六期高等科看護術練習生採用試験問題

(採用試験施行期日昭和十八年七月五日)

右五月十日左ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向ハ至急通知相成度

一 聯合試験參加各部ノ分ハ横須賀海軍人事部長及大湊警備府副官宛送付

二 單獨試験施行ノ所轄ヘハ直送

三 聯合試験參加豫定ノ所轄ニテ豫定變更ヲ爲聯合試験不能ノ向ニ對スル分トシテ横須賀海軍人事部長宛若干部送付

(横須賀海軍病院)

○事務所撤去

呂號第百九潜水艦艦裝具事務所ハ四月二十九日撤去セ

リ  
伊號第百八十二潜水艦艦裝具事務所ハ五月十日撤去セ

海軍公報(部内限)第四千三百八十九號 昭和十八年五月十五日

四六五

戦時召集延期実施要領（一般用）

（昭和十八年五月十五日海軍公報（部内限））

在郷陸軍豫備役將校、准士官、豫備役、國民兵役下士官、豫備兵、補充兵及國民兵（兵籍ニ編入セラレ  
アル者ニ限ル）ニシテ總力戰遂行上必要ナル業務ニ従事シアル者ハ動員、補充並兵役義務上差支ナキ範  
圍ニ於テ一時其ノ戦時召集ヲ延期ス之ヲ戦時召集延期者（延期期間ハ九月一日ヨリ翌年八月末日迄トシ  
翌年ノ年度ヲ冠シテ稱呼ス）、其ノ候補者ヲ戦時召集延期候補者ト謂ヒ其ノ延期要領ハ左記各號ニ依ル

一 戦時召集延期候補者人員ノ配當

陸軍大臣ハ毎年五月末日迄ニ業務種別別紙第一參照、要度種別甲種、乙種ニ区分シ特ニ重要ナル者ヲ、  
甲種トシ要度甲種ニ次ク者ヲ乙種トス、役種別「豫備役  
及補充兵  
」トニ区分ス並歸還者及其ノ他ノ者別別紙第二參照ニ区分シタル翌年度ノ戦時召集延期候補者人員數ヲ調査官  
別紙第一參照ニ配當ス

前項戦時召集延期候補者人員配當ノ資料トシテ調査官ハ毎年三月末日迄ニ三月一日調ヲ以テ兵役關係  
人員調査表（別紙第三様式）ヲ陸軍大臣ニ送付スルモノトス

二 戦時召集延期候補者ノ調査選定

1 調査官ハ前號ニ依リ戦時召集延期候補者人員ノ配當ヲ受ケタルトキハ別紙第一調査範圍ニ依リ業  
務種別毎ニ七月一日調ヲ以テ役種別、歸還者及其ノ他ノ者別ニ重要ナル者ヲ調査シ要度高キ者ヨリ  
各配當セラレタル甲種人員數ヲ當該甲種戦時召集延期候補者トシテ選定シ次テ殘餘ノ人員中ヨリ各

配當セラレタル乙種人員數ヲ當該乙種戰時召集延期候補者トシテ選定ス

2 調査官ハ戰時召集延期候補者ノ選定ニ方リ配當セラレタル業務種別、要度種別、役種別並歸還者及其ノ他ノ者別人員ヲ直屬ノ部局工場等ニ區分配當シ該部局工場等ノ長ヲシテ選定セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特ニ重要ナル部局工場ニ在リテモ之ニ配當スル役種別戰時召集延期候補者人員ハ當該部局工場ノ役種別總人員ノ六割ヲ超ユルコトヲ得ス

3 戰時召集延期候補者ノ選定ニ方リテハ各種別配當人員ノ範圍内ニ於テ選定スルモノトシ各種別配當人員ハ變更(融通若ハ超過)シ得サルモノトス

4 服役第一年次ノ補充兵及之ニ準スル第二國民兵(徵兵終決處分後ヨリ翌年十一月末日迄ノ期間内ニ在ル者ヲ謂フ)ハ戰時召集延期候補者トシテ選定セサルモノトス

三 戰時召集延期候補者名簿、名票等ノ調製

1 調査官ハ戰時召集延期候補者ノ選定ヲ終リタルトキハ業務種別毎ニ左ノ通書類ヲ調製スルモノトス

(イ) 各聯隊區別准士官、下士官、兵戰時召集延期候補者名簿(様式別紙第四) 三通

(ロ) 各聯隊區別佐尉官戰時召集延期候補者名簿(様式別紙第五) 三通

(ハ) 將官戰時召集延期候補者名簿(様式別紙第六) 三通

(ニ) 戦時召集延期候補者名票 (様式別紙第七)

一通

(ホ) 戦時召集延期候補者關係調査表甲號 (様式別紙第八)

二通

(ヘ) 戦時召集延期候補者關係調査表乙號 (様式別紙第九)

一通

各部局工場等ノ長ヲシテ戦時召集延期候補者ヲ選定セシムル場合ニ在リテハ當該部局工場等ノ長ヲシテイ、ロ、ハ、ニ、ホ號ヲ調製セシメ調査官ハ別ニ當該調査官廳ノ(ホ)號(集計)二通ヲ調製スルモノトス

2 調査官ハ業務種別毎ニ戦時召集延期候補者名簿ノ人名ニ一連番號ヲ附シ且該番號ヲ戦時召集延期候補者名票ニ轉記スルモノトス

部局工場等ノ長ヲシテ名簿ヲ調製セシメタル場合ニ於ケル調査官ノ一連番號ノ附著要領左ノ如ク調査官直接名簿ヲ調製シタル場合ハ之ニ準スルモノトス

(イ) 同一業務種別ニ屬スル名簿ヲ先ツ部局工場等ノ順(官制上ノ順、別紙第十所在地府縣順又ハイ

ロハ順等)ニ排列ス但シ將官戦時召集延期候補者名簿ハ全部局工場等ノ分ヲ一括シテ最後尾ニ位

置セシム

(ロ) 各部局工場等内ニ於テハ別紙第十聯隊區順ニ排列ス

(ハ) 各聯隊區内ニ於テハ佐尉官戦時召集延期候補者名簿、准士官、下士官、兵戦時召集延期候補者

0217

名簿ノ順ニ排列ス

(ニ) 右各號ノ排列ヲ完了シタル後各人ニ一連番號ヲ附ス

四 名簿、名票及調査表ノ送付

調査官ハ名簿、名票及調査表ヲ八月十日迄ニ到着スル如ク左ニ依リ送付スルモノトス

1 本籍地所管師團長宛

(イ) 當該師管内在籍ノ佐尉官戰時召集延期候補者名簿及准士官、下士官、兵戰時召集延期候補者名簿各二通並當該戰時召集延期候補者名票一通ヲ送付ス

(ロ) 前號名簿及名票ハ業務種別毎ニ區分シ各業務種別内ニ於テハ第三號第2號ノ順(番號順)ト爲スモノトス

2 陸軍大臣宛

業務種別毎ニ別冊トシ左ニ依リ送付ス

(イ) 將官戰時召集延期候補者名簿三通及當該戰時召集延期候補者名票一通

(ロ) 戰時召集延期候補者關係調査表甲號一通

調査官廳ノ調査表(集計表)、部局工場等ノ調査表順ニ編綴ス

(ハ) 戰時召集延期候補者關係調査表乙號一通

0218

(ニ) 佐尉官戰時召集延期候補者名簿、准士官、下士官、兵戰時召集延期候補者名簿一通及戰時召集

延期候補者關係調査表甲號一通

名簿ハ第三號第2號ノ順(一連番號順)トシ調査官廳ノ調査表(集計表)甲號一通ヲ最上位ニ、

各部局工場等ノ調査表甲號各一通ヲ當該部局工場名簿ノ上位ニ編綴ス

五 戰時召集延期者ノ決定

1 將官ノ戰時召集延期ハ陸軍大臣之ヲ決定ス

2 佐官以下ノ戰時召集延期ハ本籍地所管師團長之ヲ決定ス但シ陸軍大臣ハ狀況ニ依リ之ヲ削除セシムルコトアリ

3 本籍地所管師團長ハ概ネ左ノ如ク處理スルモノトス

(イ) 調査官ヨリ名簿及名票ノ送付ヲ受ケルトキハ動員、補充上ノ要求ニ依リ所要ノ者ハ削除シ當該名票及名簿ニ否決ト記入シタル後殘餘ノ名票並名簿ヲ聯隊區司令官ニ送付ス

(ロ) 聯隊區司令官書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ在郷軍人名簿ニ所要事項ヲ轉記ス此ノ際役種、兵種、官等級、徵集、任官年、本籍地、氏名等ノ誤記、文字ノ不明確等ニ因リ該當者ノ在郷軍人名簿ヲ索出シ得サルカ若ハ應召、現役年月ノ正確ナラサルモノアルトキハ當該名票及名簿ニ不明又ハ不正ト記入シ該名票並名簿一通ヲ師團長ニ提出シ其ノ他ノ名票並名簿一通ハ當該年度間之ヲ保

存ス

(ハ) 師團長(イ)號ニ依リ削除セル者ノ名票及前號ニ據リ提出セラレタル名票ヲ官廳、業務種別、番號順ニ整理ノ上陸軍大臣ニ提出シ名簿一通ハ當該年度間之ヲ保存ス

4 前二號ノ細部ハ陸軍大臣別ニ師團長ニ示ス

5 陸軍大臣ハ適宜第1號及第3號(ハ)號ノ否決名票ヲ調査官ニ返戻ス

該名票ハ特ニ指示(通牒)スル場合ノ外調査官ヨリ再送付スルコトヲ得ス

六 戦時召集延期者ノ削除

1 調査官ハ戦時召集延期者トシテ決定セラレタル者ニシテ退職セル者アリタルトキハ調査年ノ翌年六月末日迄其ノ都度別紙第十一様式ニ依リ之ヲ師團長(二通)及陸軍大臣(一通)ニ通報スルモノトス

2 戦時召集延期者トシテ決定セル者ノ削除(召集)ニ關シテハ陸軍大臣別ニ本籍地所管師團長ニ示ストコロニ依ル

七 戦時召集延期者ノ追加

官廳、工場、事業場ノ新設等ニヨリ必要已ムヲ得サルトキハ概ネ九月、十一月、二月ニ戦時召集延期候補者人員ヲ追加ス

0220



前項ニ該當シ戰時召集延期候補者人員ノ追加ヲ要スルトキハ調査官ハ別紙第三様式現況、配當希望人員、事由等ヲ詳具シ陸軍大臣ニ上申スルモノトス  
戰時召集延期候補者ヲ追加スルニ方リテハ陸軍大臣追加名票及追加名簿ヲ本籍地所管師團長ニ送付スルモノトス

附記

戰時召集延期者ハ逐次歸還者ヲ以テ之ニ充ツルモノトス爲之調査官ハ隨時歸還者ヲ以テ歸還者ニアラサル重要ナル者ニ逐次代位セシメ得ル如ク所要ノ措置ヲ講スルモノトス

(別紙十一葉添)

0221

戰時召集延期手續要領表

調査官		業務種別		居住地		調査官ノ手續		決定官及 其ノ手續																																						
宮内大臣	皇室關係者 (其一)	鐵道省在職者 (其二)	地方鐵道會社從業者 (其三)	鐵道車輛會社從業者 (其三)	遞信省在職者 (其三)	大日本放送協會從業者 (其三)	國際電氣通信會社從業者 (其三)	民間航空乘組員 (其五)	警察關係者 (其六)	消防關係者 (其六)	防空關係者 (其六)	國民學校教員 (其十一)	當該指定工場從業者 (其七)	指定鑛山從業者 (其七)	內閣當該各省在職判任官以上 (其十二)	內閣當該各省ノ在外官吏 (其九)	當該陸軍部隊官衛學校在職者 (其二)	陸軍監督官廳ノ長	海軍大 臣	海軍艦政本部長	海軍航空本部長	内地師團長	船乘組員 (其四)	帝國議會ノ議員 (其十)	旭川師團長	朝鮮軍司令官	臺灣軍司令官	關東軍司令官	北支方面陸軍最高指揮官 (其十二) 乃至 (其八) (其十一) (其十二) 該當者	中支方面陸軍最高指揮官	南支方面陸軍最高指揮官	香港占領地總督	香港占領地	南支那、澳門	中支那	北支那	關東州、滿洲國	臺灣	朝鮮	樺太	他師管在籍者	所管内在籍者	手續右ニ準ス	別ニ定ムルトコロニ依リ當該師團長、軍司令官、最高指揮官、占領地總督調査決定ス但シ將官ニ在リテハ陸軍大臣決定ス	一、調査官ハ三月一日調兵役關係人員表ヲ陸軍大臣ニ送付(提出)ス 二、調査官ハ陸軍大臣ヨリ配當セラレタル人員ノ範圍内ニ於テ七月一日調ヲ以テ翌年度戰時召集延期候補者ヲ選定シ關係書類ヲ八月十日迄ニ本籍地所管師團長及陸軍大臣ニ送付ス	一、陸軍大臣ハ將官ニ付戰時召集延期候補者中ヨリ戰時召集延期者ヲ決定ス 二、本籍地所管師團長ハ佐官以下ニ付戰時召集延期候補者中ヨリ戰時召集延期者ヲ決定ス但シ陸軍大臣ハ所要ノ者ニ付之カ削除ヲ師團長ニ命スルコトアリ

別紙第三

歸還者

歸還者トハ左記該當者トス

左記

豫備役將校

イ 昭和十二年七月以後任官セル幹部候補生出身ノ將校ニ在リテハ三年以上在隊シタル者

ロ 其ノ他ノ將校ニ在リテハ昭和十二年七月以後二年以上應召シタル者

豫備役准士官

昭和十二年七月以後二年以上應召シタル者

豫備役及國民兵役下士官

イ 昭和十二年七月以後任官セル幹部候補生出身ノ下士官及志願ニ依ラサル下士官ニ在リテハ三年以

上在隊シタル者

ロ 其ノ他ノ下士官ニ在リテハ昭和十二年七月以後二年以上應召シタル者

豫備兵及現役出身ノ國民兵

イ 昭和十二年七月以後現役滿期シタル兵ニ在リテハ三年以上在隊シタル者

ロ 昭和十二年六月以前ニ現役滿期シタル兵ニ在リテハ昭和十二年七月以後二年以上應召シタル者

補充兵及國民兵(現役出身者ヲ除ク)

昭和十二年七月以後三年以上應召シタル者

注意

一 應召ニハ防衛召集ニ依ル應召ハ含マサルモノトス

二 期間ノ計算ニ方リテハ入營、應召、除隊、召集解除ノ月ハ夫々滿一月トシテ計算スルモノトス

三 在隊期間トハ入營、應召ヲ問ハスニ在隊セシ期間ヲ謂フ

0223

兵役關係人員調査表

調査年月日

業務種別	現在シ		現在シアル在郷兵役者人員		合計	子女 F ノ中人 G	入者 ノ中人 H
	A 員 ノ 中 計	子 ノ 中 計	預備役及補充兵役 ノ中人 計	國民兵役 ノ中人 計			

調製上ノ注意

- 一 業務種別ハ別紙第一ニ、歸還者ハ別紙第二ニ依ル  
但シ皇室關係者ハ更ニ侍從、侍醫、東宮傅育官、皇宮警察官吏、皇宮警察部消防夫、宮内省在職判任官以上(上記ノ者中ノ該當者ヲ除ク)ニ區分調製スルモノトス
- 二 船舶乗組員ニ在リテハA、F、G、Hノ記載ヲ要セス
- 三 兵事事務者ニ在リテハ管内當該道府縣廳、樞太廳、支廳、警察署、市區町村數ヲAトシ各主任者一名ニ付調査スルモノトシF、G、Hノ記載ヲ要セス

別紙第四

何師管何聯隊區管内在籍准士官、下士官、兵戰時召集延期候補者名簿  
(昭和十八年七月一日調)

官廳名	業務種別名	海軍部隊在職者	應召年月 現職官名	役種 (現職)	應召年月 ノ當否	兵種部 官等級 (在官年)	本籍地	氏名	海軍省				部局等 及所在地							
									番號	一連 種別	重要 順位	從業 年月	甲	乙	甲	乙				
									623	甲	3	57	九、一〇	何	豫	一國 (二、一〇)	山一 大、四	何	何	某
									624	甲	11	57	七、〇八	何	一補 三、〇二		昭一 三	何	何	某
									625	乙	45	57	四、〇二	何	二補		昭一 三	何	何	某
									626	甲	2	21	八、〇五	何	一國 (二、一〇)		何	何	何	某

調製上ノ注意

- 一 用紙ハ日本標準規格B列5號(横二八二×縦二五七)トシ様式ハ本様式ニ據ルモノトス
- 二 本名簿ハ准士官、下士官、兵ニ付本籍地所管各聯隊區毎ニ別紙ニ調製スルモノトシ豫備役、補充兵役ノ者ハ前部ニ、國民兵役ノ者ハ後部ニ記載スルモノトス
- 三 部局工場等ノ所在地及名稱ハ調査官該名簿ヲ部局工場等ノ長ヲシテ調製セシメタル場合之ヲ記載スルモノトス
- 四 一連番號ハ調査官ニ於テ業務種別毎ニ一連ノ番號ヲ記載スルモノトス(本文参照)
- 五 重要順位ハ調査官(調査官部局工場等ノ長ヲシテ調査選定セシメタルトキハ該部局工場等ノ長)ニ於テ豫備役、補充兵役ノ戰時召集延期候補者人員、「國民兵役ノ戰時召集延期候補者人員」ヲ夫々分母トシ其ノ人員中ニ於ケル重要順位ヲ分子トシテ記載スルモノトス
- 六 現職名ハ陸軍在郷軍人職業申告規則申告該當者ハ該規則ノ職名ヲ記載スルモノトス
- 七 應召年月ハ昭和十二年七月以後ニ於ケル通算應召期間(應召、召集解除ノ月ハ夫々滿一ヶ月トシテ通算ス)ヲ、現役年月ハ現役トシテ在隊セシ期間(入營、除隊ノ月、幹部候補生出身等ノ者ニシテ補充役役ヨリ現役ニ轉移シ或ハ現役ヨリ豫備役ニ轉移シタル月ハ夫々滿一ヶ月トシテ計算ス)ヲ括弧ヲ附シ明確ニ區分記スルモノトス
- 八 歸還者ニ在リテハ歸還者ノ當否欄ニ〇印ヲ附スルモノトス
- 九 第二國民兵ニ在リテハ徵集年ハ徵兵終決處分ヲ行ヒタル年トス

別紙第五

調査官 何師管何聯隊區管内在籍佐尉官戰時召集延期候補者名簿 (昭和十八年七月一日調)

				省		軍		海		業務種別名		海軍部隊在職者				
及所場部 名在等局 稱地ノ工				622	621	番一連 種要 類別度	順重 位要	年從 月業	(現 職)名官	役種	應召年月 (現年月)	歸還者 ノ當否	兵種 官種	徵集年 (在官年)	本籍地	氏名
				甲	甲			八、〇二	何	豫	二、〇三	〇	步大尉 (大 四)	何	何 某	
				6 57	5 57			一、〇五	何	豫	二、〇八	〇	野少尉 (昭 二 四)	何	何 某	

調製上ノ注意

(朱染)

- 一 本名簿ハ佐尉官ニ付本籍地所管各聯隊區毎ニ別紙ニ調製スルモノトス
- 二 本名簿左側ニハ朱染ヲ施シ准士官、下士官、兵戰時召集延期候補者名簿トノ識別ヲ容易ナラシムルモ  
ノトス
- 三 其ノ他別紙第四ニ準ス

0226

將官戰時召集延期候補者名簿

(昭和十八年七月一日調)

官廳名				海軍省		部局及所在地		稱名	
				900	899				
				甲	甲				
				何	何				
				何	何				
				豫	豫				
					二、〇五				
					〇				
				何	航				
				少	技				
				將	少				
				何	將				
					何				
				福	東				
				岡	京				
				縣	府				
				々	々				
				何	何				
				某	某				

調製上ノ注意

(青染)

- 一 本名簿ハ聯隊區別ノ區分ヲ要セス
- 二 本名簿左側ニハ青染ヲ施シ佐尉官、准士官、下士官、兵ノ名簿トノ識別ヲ容易ナラシムルモノトス
- 三 其ノ他別紙第四ニ準ス

約25cm

1.5cm							
2cm ○ ..... 5cm ..... ○ 2cm							
戦時召集延期候補者名票							
事由	内年 容月	(現役) 應召	業分 (特)	(徵集年) 任官年	役種	本籍地	師管名
				ノ歸 當選者	月生 日年		兵種
				氏名	官等級		官調 應名査
							海軍省
	理必延召 由要期集	(現職) 名官	種要 別度	種業 別務	及所 名在 稱地	場等ノ 部局工	
		年從 月業	順重 位要				
			番一 號連	日一月七年八十和昭		年調 月日 日査	

調製上ノ注意

- 一 返戻事由ハ決定官ニ於テ記載スルモノトス
- 二 部局工場等ノ長ヲシテ名票ヲ調製セシメタル場合ニ於テモ一連番號ハ調査官之ヲ記載スルモノトス
- 三 記載事項ハ戦時召集延期候補者名簿記載事項ト一致シアルヲ要ス
- 四 用紙ハ相當ノ厚紙トス

0228



戰時召集延期候補者關係調査表(甲號) (昭和十八年七月一日調)

考 備	合 計	國 民 兵 役				預 備 役 及 充 補 兵 役								區 分	業 務 名 稱 海軍部隊在職者	調 査 官 廳 名 海 軍 省 一 部 局 工 場 等 所 在 地 及 名 稱		
		計	第二國民兵(未教育)	第二國民兵(既教育)	第一國民兵	國民兵役下士官	計	第二補充兵(未教育)	第二補充兵(既教育)	第一補充兵(未教育)	第一補充兵(既教育)	豫 備 兵	豫備役下士官				豫備役准士官	豫備役尉官
本表ノ外 在職女子總人員 入營中ノ者人員 應召中ノ者人員 名 F 名 G 名 H	D'					D											現在在職兵役關係者 歸還者 其ノ他者 計 召集延期候補者人員 其ノ他者 計 在職男子總員 比 率	
	B'					B												
	E'					E												
	C'					C												
	A																	
	$\frac{E'}{C'}$	$\frac{E'}{D'}$	$\frac{C'}{B'}$	$\frac{B'}{A}$		$\frac{E}{C}$	$\frac{E}{D}$	$\frac{C}{B}$	$\frac{B}{A}$									
	○	○	○	○		○	○	○	○									

調製上ノ注意  
 比率ハ小數點以下二位迄トス(三位以下ハ四捨五入ス)

0229

戦時召集延期候補者関係調査表(乙號)

調査年月日

業務種別名	海軍部隊在職者		調査官應名		海軍省
	海軍部	隊在職者	海軍	省	
總計及部	現在男	豫備役、補充兵役	國民兵	役	其ノ他
局工場等名	子總員	A	B	D	C
			E	C/B	E/C
			B'	D'	C'
			E'	C'/B'	E'/C'
			F	G	H
總計					
部					
局					
工場					
等					
名					

調製上ノ注意

- 一 符號ハ別紙第八ニ同シ
- 二 用紙ハ日本標準規格B列5號トス
- 三 C/B、E/C、C'/B'、E'/C'ハ小数點以下二位迄トス(三位以下ハ四捨五入ス)

0230

8		7			6				5			4		3			2		1					順序 名稱	師 管			
路		姫			大				都			京		屋古名			澤金		臺仙			宮都宇				京東		
27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	順 序	聯
鳥	岡	神	和	奈	大	福	津	大	京	靜	岐	名	長	富	金	新	福	仙	前	宇	水	千	浦	横	甲	東	名	隊
取	山	戸	山	良	阪	井		津	都	岡	阜	屋	野	山	澤	濁	島	臺	橋	宮	戸	葉	和	濱	府	京	府	區
鳥	岡	兵	和	奈	大	福	三	滋	京	靜	岐	愛	長	富	石	新	福	宮	群	栃	茨	千	崎	神	山	東	稱	縣
取	山	庫	山	良	阪	井	重	賀	都	岡	阜	知	野	山	川	濁	島	城	馬	木	城	葉	玉	川	梨	京		
				14				13				12				11				10				9		順 序	師 管	
				前弘				川旭				米留久				本熊				寺通善				島廣				
51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	順 序	聯			
山	秋	盛	青	豐	劍	函	札	旭	長	佐	福	浦	鹿	宮	大	熊	高	松	德	高	山	松	廣	名	隊			
形	田	岡	森	原	路	館	幌	川	崎	賀	岡	細	島	崎	分	本	知	山	島	松	口	江	島	區				
山	秋	岩	青	樺	北海道				長	佐	福	沖	鹿	宮	大	熊	高	愛	德	香	山	島	廣	府				
形	田	手	森	太					崎	賀	岡	細	島	崎	分	本	知	媛	島	川	口	根	島	稱	縣			



(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

海軍大臣官房

昭和十八年五月十六日(日)

官房軍第五三五號

雜役船ノ所屬(供用先)ヲ左ノ通變更ス

昭和十八年五月十四日

海軍大臣

公稱番號	船種	舊所屬	新所屬	定數別	記事
第六七五號	曳船 (百五十艘)				
第八一九號	同 (百艘)				
第一四五二號	曳船兼交通船 (百艘)				
第六九六號	交通船兼曳船 (六十艘)				
第八八一號	同 (同)				
第九一一號	同 (同)				
第九四四號	同 (同)				
第二四二九號	傳馬船 (十二隻)				

海軍公報 (部内限) 號外

0233

第二九四八號	傳馬	(十米船)
第二七六三號	同	(八米)
第二八八七號	同	(同)
第三四二五號	同	(六米)
第三四二六號	同	(同)
第三四二七號	同	(同)
第三五六八號	同	(同)
第三五六九號	同	(同)
第二四五四號	運貨	(同) (百噸船)
第三〇四四號	同	(同)
第二六四一號	同	(五十噸積)
第二四五五號	同	(同) (百噸積)
第二八四九號	同	(同)
第一九二〇號	同	(五十噸積)
第二三一二號	水	(百五十噸積) 船
馬公海軍港務部		
高雄海軍港務部 (馬公方面特別根據地) (隊司令部供用)		
臨時附屬		

0234

第一八三一號	泥 (受船) (五十坪積)	第一六四九號	浚 (深船) (バケツト式)	第三〇九六號	同 (長十二米幅四米)	第二八九九號	内 (火艇) (七米)	第二八六四號	同 (同)	第二八六三號	同 (長十五米幅五米)	第一九八〇號	橋 (長十三米幅四米)	第三〇〇三號	同 (舉揚力二十噸)	第二五六五號	起 (重機船) (舉揚力五十噸)	第二六四二號	同 (同)	第二四九八號	同 (同)	第二三三〇號	同 (五十噸積)	第三四四〇號	同 (同)		
		馬公海軍港務部																									
		高雄海軍建築部		高雄海軍港務部																							
		同		定數																							